

コロサイ人への手紙 第4章 6節 (塩味のきいた)

あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答えがわかります。

獄中にある者からの手紙が私たちに届きます。今の時代に在って、命を繋ぐこととはどのようなことか、命を当たり前生きることはどのようなことか問われる日々です。この一文の送り手は、今の私たちとは比較ならない厳しさにあつたと想像します。激しい言葉、傷つけられる言葉、痛ましい言葉を浴びせられていたでしょう。その者から身を切るような手紙の一文です。

獄の者のことではありません。あなたがたを思いやる言葉から始まります。そして、あなたがたが用いていることばがどのようなものであるべきか勧めます。ののしりの言葉を浴びている者が、獄外の仲間たちに、いつも親切で、塩味のきいたものであれ、と願います。語られるべき言葉の大切さを体験している者からの勧めです。

そうすれば、ひとりひとりに対する答えがわかります。送り手が体験していることです。ふさわしいことばが語られる時、聞く者に希望が、励ましが、救いがあります。